

第9回亀山市学校給食検討委員会議事録

日時・場所	平成27年11月26日(木) 午前10時00分～午前11時40分 亀山市役所 職員会館 2階
出席委員	仲律子委員長、大川吉崇副委員長、遠藤博美委員、川口謙次委員、伊藤登美子委員、 玉村仁子委員、東裕美委員、本田実委員、松井美樹委員、北崎亜紀委員、 櫻井恵美子委員、川戸磨美委員、吉崎直子委員、富田真佐哉委員、大澤哲也委員、 原田和伸委員
欠席委員	上田真梨子委員、豊田達也委員、青木正彦委員、藤尾春樹委員
事務局	佐久間利夫教育次長、中原博学校教育室長、 学校教育室 原千里、小林真理子
事 項	<ol style="list-style-type: none"> 1 あいさつ 2 前回議事録の確認について 3 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 中学校給食に関する意見書(案)について (2) 幼稚園における食に関わる現状と課題について <ul style="list-style-type: none"> 【資料1】食物アレルギーに関する実態調査結果について 【資料2】亀山市幼児教育・保育共通カリキュラム(案)について 【資料3】幼児の食に関するアンケート調査結果について 4 その他

議 事 内 容

【教育次長】

おはようございます。急に寒くなって参りましたが、皆様お忙しいところご出席いただきましてありがとうございます。前回の検討課題でありました第二次意見書について、皆さんからいただいた意見をもとに事務局の方でまとめております。意見書案につきまして、皆様から活発なご意見をいただきたいと思いますので、本日もどうぞよろしくお願ひします。本日は、公務のため上田委員、青木委員、豊田委員、藤尾委員が欠席させていただいております。それでは、仲委員長進行をお願いします。

【委員長】

ただいまより、第9回亀山市学校給食検討委員会を開催します。

はじめに、亀山市審議会等の会議の傍聴に関する規程により傍聴の許可についておはかりします。現在、1名の傍聴を希望される方がみえます。本日の会議において傍聴の許可をしたいと思いますが、これに異議ございませんか。

(異議なし)

異議なしとみなし、許可したいと思います。なお、途中傍聴を希望する方がみえましたら、再度皆様におはかりいたしたいと思います。

それでは、まず前回の議事録の確認をしたいと思います。事前に事務局より送付されましたが、ご意見等ありましたら発言願います。

特に何もございませんでしょうか。それでは、これを第8回議事録とし、教育委員会ホームページで公開いたします。

続いて、議事に入ります。前回の会議に引き続き、第二次意見書のとりまとめをします。事前にこれまでの会議で委員の皆様が発言された内容と意見書(案)が送付されているかと思います。これまで皆様から出された意見、前回委員会で出ました意見を中心に、事務局で修正された意見書案になります。皆さんからご意見をいただく前に事務局から説明をお願いします。

【事務局】

意見書案作成について、説明

【委員長】

ありがとうございます。基本的には本日まとめたいと思っています。それはなぜかという、これまで何回もこの委員会を開催しまして、皆さんたくさんの意見を出していただいて、それをこれまで皆様がどういう意見を発言されたかを事務局でまとめて、みなさんのところにお配りいただいたというところがあります。基本的にはこの委員会としては、中学校の給食については完全給食の自校方式が理想というところの結論は出ているわけです。それを、いかにシンプルに分かりやすく伝えるかというところが、意見書の目的になるだろうと思っています。私もこういう会議に出させていただくことが多いですが、必ずテイクホームメッセージ、これだけは理解してもらいたい、これだけは家に持って帰ってほしいというテーマを決めて、それを伝えるためにどういう道筋で話をしていけばいいかということを考えるわけです。その時にテーマから外れるものは少し外しておかないと、テーマがうまく伝わらないということがあります。ここに書いてあるような基本的方針についてというところで、自校方式による完全給食が理想であるという結論は最初に出ている

わけですね。けれど、もしできない場合もあるかもしれないので、校舎の建て替え時とかいろいろな方法があって、段階的にできたらやってもらいたいといったところもあります。ただ、最初にお弁当とかデリバリーとかいうところが出てますけれども、実際に弁当を持参する生徒が6割以上あって、弁当を望む結果は事実としてアンケートで挙がっています。意見書案には、過半数以上の者がそれを望んでいるという結果、完全給食という言葉についても明記して下さいというのも既に明記されているわけです。ここにメインテーマとして載っていないところは、これまでみなさんが委員会で発言されたことは全て議事録に載っておりますので、この意見書に議事録を添えて提出をするということになっています。このことを踏まえて、今日はお話をさせていただければと思います。基本的にこれだけという部分、この文章のこの表現はおかしいとか、ここだけは譲れないといところだけ、ご意見を出していただけたらと思っていますのでよろしくお願いします。みなさんの今までのご意見は事務局がしっかりと受け止めて、今までの議事録の中から皆さんの発言を全て抽出して、その上で最大公約数的な形での意見書にまとまっているのではないかと考えています。その面も含めましてご意見をいただけたらと思っていますので、よろしくお願いいたします。では、ご意見がある方は是非お願いいたします。表現とかここだけはどういうところがありましたら、遠慮なくご発言願います。前回このようにお願いしたんだけど、ここが抜けているんだけどこれはどういう意図で抜けていますかとか、事務局の方でお答えしますのでご確認いただいて、ご意見、ご質問をいただければと思います。時期的なものがあり、意見書をまとめていかないといけないというのがありますので。それでは、一言ずつ発言していただきましょうか。

【遠藤委員】

たいへんよくまとめていただいてあるので、私たちの望むものを明確にさせていただいてあると思います。ひとつ、先ほど事務局の方から説明いただきましたデリバリーの試食会について質問をさせていただこうと思っていたところ、事務局より説明いただきましたので理解させていただきました。もし、文章の中にそれらしきことを入れていただければ、例えば今後も保護者等へのと、等という言葉を入れていただければもっと他のことも考えていただけるのかと思いますが、無理にと言うことではございません。

【川口委員】

きちんとまとめていただいてありがとうございます。あと、言葉

の問題なのかなと思うところしかないのですが、基本の方針の2段落目の4行目、生徒が昼食に関心を持っていることがうかがえます。ありますが、うかがえというか、うかがわれの方が良いかと思いましたが、また、3段落目の、しかし心身の成長がという長い文があるのですが、いくつかの要素がここに組み込まれていますので、分かりにくいなという感じがします。できるのであれば、2つぐらいの文書にすっきりまとめていただけるとありがたいなと思います。

【伊藤委員】 大変な文章をこれだけしっかりと集約していただきまして、ありがとうございました。

【玉村委員】 一人一人に以前発言した内容を資料として付け加えていただいて、自分の意見が反映されているかというのを確認できるようにしていただいてありがとうございました。これで十分かと思えます。

【東委員】 すごく上手な言い回しというか、文章がなるほどと納得できるようにまとめていただいてあるので、これで良いと思います。

【本田委員】 私も原案通りで良いという意見です。

【松井委員】 このようにまとめていただいて、ありがとうございました。私もこのままで良いという意見です。

【北崎委員】 私も皆さんのいろんなご意見が反映されており、上手にまとめていただいてあると思います。留意事項の(3)につきましては、関中学校が該当するかと思いますが、このことに関しましては学校と話をさせていただきまして、そういった内容が含まれておりますので、学校のその時の状況によって判断して実行していただくということを話し合ってきましたので、十分理解できます。

【櫻井委員】 私もこのままで良いという意見です。

【川戸委員】 私もこのままで良いという意見です。

【吉崎委員】 私の発言も考慮して入れていただき、ありがとうございました。委員長が言われたように、自校方式の完全給食が理想であると明確にだされているので、意見書としてすごくすばらしくまとめていた

だいたなと感じています。少し外れますが、アンケートをとったのが子どもたち向けなので、子どもたちの食に対する関心は分かるのですが、最後の方で書いてあるように学校や保護者が連携して食育にあたるという環境を今後作っていくということを目的としていただくなれば、今後アンケートを保護者の方にもとっていただいで、保護者も巻き込んでいくような体制をとっていただけたら、また次に繋がっていくかなと思いましたが、これからは保護者の方にもアンケートをとったり意見を述べる場を作っていただけたらと思います。

【富田委員】 皆さんの意見を集約して方向性を出していただいているので、原案通りで良いと思います。2ページ目の3段目で、弁当とデリバリー給食にはそれぞれのよさがありということで、良さはひらがなで良いのかと気になりました。

【大澤委員】 これまでの、特に市民代表の委員の方の意見を考慮していただいた意見書になっているので、これで問題ないかと思います。

【原田委員】 私も同様で各委員さんの意見がまとめられていると思います。

【副委員長】 非常にシンプルで、分かりやすい書き方にいただいたのが良いと思います。先ほどもありましたが、意見を入れ過ぎるとわからなくなってしまいますし、議事録を見ていただきますと分かりますのでこれで良いと思います。この先5年後、時代がどう変化するかわかりませんので、その辺を教育委員会の方で加味していただいで、目安としては5年後にもう一回委員会を開催するとか、来年になるとか、3年後になるとかそのへんは分からないので書く必要はないと思います。

【委員長】 5年後にまた委員会を開くのですか。

【事務局】 何年後とは言えませんが、いよいよ作っていくという段階になったりとか、アレルギーの課題も今言われていて、そのあたりも含めた食に関わることについて検討の必要性が出てきた時には、速やかにいろいろな方に集まっただいで、検討しないといけないかなと思っています。

【委員長】

様々な意見を出していただいていたありがとうございました。それぞれの良さという部分や伺われといった部分とか、川口委員から二つぐらいの文に分けたほうが分かりやすいのではないかという意見とか、遠藤委員から保護者等と入れたほうが良いのではないかという意見とかありましたので、それは最終的なところでわかりやすい形で日本語も調べまして、こちらの方は事務局と委員長に一任いただきたいのですが、よろしいでしょうか。基本的には意見書がただの紙切れにならないように、亀山市教育委員会の方にはぜひ自校方式による完全給食を目指していただきたいと思っていますし、もし次回開かれるのであれば、実際具体的にどのように自校方式の給食施設を作るかという委員会が立ち上がればいいかなと思っていますし、万が一難しいということであれば数年後にまた検討会を行ってということも現実的には行われればいいかなと思っています。たくさんのご意見をいただきましてありがとうございました。事務局と委員長の方に一任いただきましたので、第2次意見書として完成させて教育委員会へ提出をさせていただきますので、よろしくお願いいたしますします。

続いて、次の議事に入ります。「小学校の食育指導につなげるための幼稚園での食に関わる現状と課題について」協議したいと思えます。まずは、資料1から資料3まで事務局説明願います。

【事務局】

【資料1】から【資料3】まで説明

【委員長】

それでは、ただいまの説明に対する質問やご意見をお願いします。

【原田委員】

個人的な意見ですが、アンケートを見て実態が分かって、自分も反省させられるデータが出ている部分があります。やはり、食事をきょうだいで摂るという家庭が少ないですけれどあるということは気になります。あと、アレルギーの関係ですが、数値で見ると、このお子さんが小学校へあがってくる場合の対応についても改めて考えさせられます。

【大澤委員】

幼稚園の年中を対象にとったアンケートなので、これをまた保育園の年中を対象にとると、また違った結果がでてくるのかなと、アンケートをとってみると面白いのかなと思いました。

【富田委員】

結果を見せていただいていた感想ですが、平日の夜の家族そろって

の食事というところで、私は年中ぐらいの時は家族一緒に食べたことが多かったかなと思うんですが、6割ぐらいの方が家族の一部としか食事をしていないという結果を見て、こういう時期に家族そろって食事をするというのは大事だと思うのですが、仕事の関係もあると思いますが、意外と少ないなという感想です。

【吉崎委員】

カリキュラムを見て、食事のことで家庭と連携するのはやはり幼稚園は難しいのかなと感じました。家庭との連携のところで、食事に関することがあまりのっていないので、今後の課題になってくるのではないかと感じました。体を作る大事な時期なので、お弁当を作る保護者にそれがどれだけ大切かということ伝えるような気持ちで関わっていった方が子どもにとってもいいと思いますし、子どもはいつまでも子どもではなく親になっていくので、子どもたちが親になった時にどうしていくのかというサイクルを見据えた上での目的を持たせたいのにと感じました。

【川戸委員】

子どもが幼児期の時に、子育てしていた時のことを思い出してアンケートを見ていました。時代は変わらずに、どの保護者も子どものことを考えているというのを感じて安心しました。アレルギーを持っている子は少ないという結果でしたが、私の中では多いなという感じでした。カリキュラムはよく考えていただいているなと思いました。保育していただいている職員の方は大変だなと、カリキュラムの多さに驚いています。

【櫻井委員】

アンケートを見させていただいて、嫌いな野菜やおかずなどが昔と同じだなという印象と、テレビを見ながら食事をされる方が多いのにちょっと驚きました。

【北崎委員】

アンケートを見ていて、幼稚園児にとって平日の朝の食事はこれから始まる1日の中で家族の言葉がけは大切なので、いろいろな状況あるかと思いますが、子ども一人で食べるのがゼロになるといいなと思いました。子どもたちが食への関心を持っていくということは親の役割だと思います。言葉がけ、例えばこれを食べると骨が丈夫になりますよとか、これを食べると血液がきれいになりますよとか、声をかけると子どもたちは一生懸命食べた記憶が子育ての中にありますので、そういった言葉掛けや実体験、芋を掘って自分たちで蒸して食べたり、生産者と顔を合わせていろんな話を聞いたり見

たりする、そのような中で子どもたちが食への関心を高めていけると思います。カリキュラムの中の5歳児あたりから出てきたかと思いますが、食への関心や意欲を高めていくことを、家庭と地域と園との連携をとって進めていただきたいと思います。

【松井委員】

アンケートを見せていただいて、家族全員で一緒に食べるという家庭は少ないということに驚きました。うちもそうなのですが、勤務時間によってはお父さんだけ帰りが遅いとなると、子どもが寝る時間に合わせて晩御飯を食べようと考えたら、先になってしまうことも多くて、その分休日では一緒に食べることが多いということで、心というかなるべくみんなそろって食べているのかなということがうかがえて良かったなと思いました。少し疑問に思ったのですが、このアンケート結果はこんな結果がでたと、保護者の方に戻ってはいるのでしょうか。

【事務局】

これは今集計した最新のものを出示させていただいているので、皆さんから出た意見を便りにするとか、このデータをフィードバックする予定であります。

【松井委員】

アンケート結果を実際保護者の方が見て、うち以外にもこんなことがあるとか、テレビ見ながら食べてる人が多いとか、食への関心ということで良い機会になるかと思しますので、ぜひアンケート結果を保護者の方に知っていただければと思います。カリキュラムもこんなに細かいことがたくさん載っていてびっくりしたんですが、5歳児の後半になってくるとアレルギーに関するところが食のところで入ってきているのがうかがえます。アレルギーを持っている子は保護者の方があなたはこれを食べるとアレルギーが出るからダメなんだよと教えていると思うんですけど、このくらいになるとお友達と遊ぶ中でよその家でお菓子を食べたりする機会も増えてくると思いますので、自分だけでなく周りの幼児さんもアレルギーについて少しずつ知っていくという機会をきちんとしていただけるということは、大事なことだなと思いました。

【本田委員】

このアンケートを見せてもらった時に、保護者の考えの中で注目したのは、好き嫌いをなくすこと、食べ残しをしないことについて保護者がどういう風に思っているのかなということと、教育の中で好き嫌いをなくしていくということが関係どうなっているのかなと

ということです。カリキュラムの5ページで5歳児の9月から10月では、何でも残さずに食べられるようにしていくということが書かれていますし、卒園前の目標では何でも食べると表現されています。例えば、保護者のアンケートでは食事のマナーや食事中的会話や姿勢よく食べることなどについては関心がある様ですが、好き嫌いをなくすことについては、嫌いなものは食べなくてもいいんじゃないかという考えを持っている方が多く、その兼ね合いが小学校の現場でもそうですが、どの程度言ったらいいのかなと悩む時があります。もう食べさせなくてもいいですという保護者の方に対してこちらがどうもっていったらいいのかなと悩みます。全てまとめてこうなったというのではなく、会話の中でしていけばいいことなのかなと思うんですけど、このカリキュラムの関係で、幼稚園や保育園でこのようなところは目指して保護者との兼ね合いとの中でずれがあったとしても、保育園としてこれでいいのかと判断をしていかないといけないと思うので、実際現場では難しいこともあるのかと思います。あと、アレルギーのことですが、職員がアレルギーを把握するということは大事なことです。5ページの5歳児の9月から10月では、子どもたち同士で話し合いを通して食物アレルギーに対する理解を深められるようにしていくとあります。これは、他者の食に関しても子どもたちがそういう子もおるんやなど、関心を持っていくということかなと思います。その次には、自分の体の異変を訴えられるようにしていくというおさえもあります。最後の卒園時の最終段階の枠には、アレルギーに関する表記がないので、ここにアレルギーに関して総まとめしたようなものが集大成としてあればいいかなと感じました。最後目指すところをつめていくとまとめられるかなと思います。それと、他者によりそうということなんですが、今は宗教上の保護者の考え、食文化や食への関心のことでいろんな文化があって、お箸の持ち方が4歳ぐらいから出てくるんですが、文化のことについてもまだまだいろんな柔軟な考え方があるというか、どんな考え方になるのかなと、こうしたらいいというのではなくて、現場ではそんな悩みもあるんじゃないかなと思いつながりながらアンケートを見せていただきました。

【東委員】

カリキュラムを見せていただいて、こんな小さい時からいろいろとしていただいているんだなというのが分かりました。3歳児の後半の食育の部分で、苦手なものが少しでも食べられたらほめという記述があるんですけど、小学校1年生でもやっているなど感じなが

ら、そのころからずっとそうやってちょっとずつ食べられるものが増えていってるんだなと感じました。入学説明会の時に保護者の方からうちの子牛乳飲めないんですけどどうしようという相談があるんですが、「アレルギーですか」と聞くと、「アレルギーじゃないんです、ヨーグルトとかは食べるんですけど牛乳は嫌いで家では飲もうとしないんです、小学校は6年間牛乳ありますけど飲まなくていいですか」と、初めから話される保護者さんもいるんですけど、「学校ではスプーン1杯からでも飲めるように努力しますし、周りの子が飲んでいるのを見ているので、アレルギーの子以外で飲めない子は今まで一人もいないですよ」ということを、学校長からも話をしていただきます。家庭であきらめてしまうことも、学校へ行けば周りの子たちのこともあったり、職員の関わりもあるので、学校へ来たら食べられるようになっていたりするのも、教育なのかなというのをアンケートを見て感じました。本田委員が言われたように、好き嫌いのところが家庭ではどうしても根負けしてしまうというか、これ食べやんでも別にどうこうなるわけじゃないしとってしまうところがあって、そこは学校がなんとか協力していくところでもあるのかなと思います。食のことは家庭でしてほしいことが多いんですけど、家庭と学校で分担してやっていかなければいけないかなと思います。また、保育園の保護者の方は違った意見が出ると思うので、いつかその結果も知りたいなと感じました。

【玉村委員】

カリキュラムのことや食のことで皆さんの意見を聞かせていただいて、現場で子どもたちと接する者としてとても貴重な意見をいただきました。その中で感じたことですが、保育園でも内容は違いますがアンケートをつい最近とりまして、食事中にテレビを見ますかという項目があったのですが、幼稚園の回答よりは見ているという人数が少し少なかったです。食事中にテレビをつけないと答えた方は、ゼロから5歳児76人中20人ほどが全くつけていないという回答でした。どちらかという、5歳児はつけていなくてゼロから3歳児はつけているということでした。考えるには小さいうちはつけていいんじゃないかと思っているのか、逆にテレビをつけて食べさせようかと考えてつけているのかと考えておりました。それと、朝のテレビはつけられないんじゃないかと思いました。幼稚園の方は朝余裕がありますので、つけているのではないかと感じました。保育園の保護者さんは忙しい朝ですので、テレビはつけなくてさっさと食べましょうという感じで、つけていないんじゃないかと

思います。また、アンケートをとることで保護者の方が食育に対してすごく気を使っていたできるようになりました。食育とはどんなことだと思いますかという質問で、いろんないいことが書いてあったり、前向きな回答がいろいろありました。栄養バランスを考えたり、旬のものを取り入れるとか、実際祖父母の家に行って野菜などを収穫して調理をして食べさせている方もいる中で、全く食に関心はなかったけど、お菓子だけでなくご飯を食べるように指導していきたいという意見を書いているお母さんもみえたので、アンケートをすることはとても大事だなと感じました。忙しい毎日からお母さんに振り向かせるということや、少しでも子どもに向かう努力を作っていけるということになっているんじゃないかなと思いました。アンケートは家庭との連携の中の一つの手立てかなと感じています。

【伊藤委員】

アスレも6月に一度アンケートをとりました。園内研修のテーマが食事睡眠運動で育つ力ですので、子どもたちの健康な心や体を作るために安全安心バランスのとれた食事の提供や、食育活動に努めるとともに、規則正しい食生活が基本的な生活習慣、自立につながるということを保護者と連携をとって進めていきたいと思ってアンケートをとりました。そのあと、11月の初めにもアンケートを年長児だけとりました。年長児は就学前ということもありまして、少し内容を集約した形になったんですけど、生活習慣の見直しについて、家庭においてもしつけをしていただけたらいいなと考えてとりました。その中の結果なんですが、今回の結果とよく似た結果が出ておりました。この資料は年中児のアンケートなんですが、アスレでは6月と11月でとったアンケートではやはり違いがはっきりと見えてきました。園からの食に関する便りを参考にしているという方がゼロだという結果にびっくりしたんですけど、文章に関して保護者に配付して周知すると、なかなかそれが浸透しないことが多いです。そのために、参観や講演会を通して保護者にしっかりと周知してきましたので、ある程度文書の内容については、さらっと流すことが多かったためかなと、反省しております。もう少し文章でも保護者の方に対して周知していくべきだったかなと思います。これからはそのことに留意して、発信していこうかなと思います。

園の指導の中で、子どもたちが朝ごはんを何を食べてきたかなということを発表する場があります。その時に子どもたちは正直に話す中で、こういうものを食べているんだなと、思ったより朝は特に

お箸を使わずに手で持って食べるものが多いなというのがありました。毎日の発表ですので、参観にお母さんが来ていただく中で、お母さんが見ている前で発表するというのをしたら、朝ごはんの内容がころっと変わりました。お母さんが気づかれたり、その後の懇談会で担任の先生がお話されたこともあって、その次の3日後になりますと、パンからごはんになるお子さんもたくさん見えましたし、スプーンじゃなくお箸を使うということもありました。乳児は自分で食べることはなかなかできませんので、朝を抜いてくること目立ちます。保育園でも3歳以上の幼児になりますと自分で食べてくる子もいますので、お母さんが洗濯や朝の支度をしている間に子どもが自分でパンを食べるといふことがあるんだと思います。これがこういうアンケートの結果に出ているのかなと思います。乳児は食べさせてあげなければいけないという観点から、どうしても時間がない、だから食べてこない子が多いです。未満児は園で1日3回食事摂取しないとイケませんので、9時におやつを食べます。保護者の方もそのことをわかってみえるので、食べないのかなというところもあるかと思いますが、注意して周知をしています。あと、お箸のことについてなんですが、保育園は2歳から指導していますので、だいたい2歳ぐらいから箸を持つ子が増えてます。幼稚園のお子さんは3歳で入園するので、アンケートでも出てましたが、3歳で箸を持つ子が多くなっています。10年前から考えると、2歳の子はほとんどお箸を使えていました。でも、昨今2歳児に箸を指導するのは大変なこともあるんですが、社会生活の中の時代の流れで、トイレとかスーパーとかボタン式や自動のものが多くて、家でもボタン式で生活することが多くなってきました。ドアでも回して入ることが少なく、それによって手先の不器用な子が増えてきているのも現実です。その辺を考えると、早くからお箸を持つよりももっと体を動かすとか、全身、体幹を鍛えてからきちっとお箸を持たせていく、小さい頃から運動が大切なのかなと思っております。アレルギーに対しては、子どもたちにクラスの子のアレルギーについて周知してます。というのは、表示を必ずしてありまして、先生はもちろん周りの子も気をつけなければいけないんだということを、3歳からしっかりと幼稚園も保育園も指導しています。関は給食ですが他の園はお弁当ですので、他の園の方にも聞かせていただいたところ、アレルギーに関してはクラス全体で話し合ったり、この子はアレルギーがあるけど特別な子じゃないんだよと、差別的な気持ちを持たないように配慮してと各園とも話をしております。アスレ

は給食ですので、給食の方でも調理員、担任、周りの子も共通理解を図って、アレルギー児童に対しての配慮をしっかりとしております。残食なんですけど、アスレでは5歳児になりますとほとんど残食はありません。給食の先生も驚くほどで、アスレは残飯で肥料を作っているんですけど、4、5月はだいぶ肥料ができるんですけど、後半になってくるとほとんど肥料ができなくなり、残食はほとんどゼロです。なぜかという、家庭ではアンケートで分かるようにやはり好きなものが出ているんですけども、集団で食べると同じもの食べているということはすごく味覚に対して効果があって、園でも夏野菜を作ったりしているので、園では食べるんですけど家ではなかなか食べられないお子さんもたくさんみえます。残食に関しては、ほとんどゼロに近いんですけど、中にはやはり椎茸とかが全部食べきれない子もいます。アスレは6月にカレーパーティーをするので、小学校1年生の子を招待すると、幼稚園の時は食べられなかったものが1年生になると食べられるようになるんだということを感じることがたくさんあります。

【川口委員】

アンケートを見せていただいたり、みなさんの意見を聞いて、対象の年齢が小さければ小さいほど保護者との連携が大切になってくるんだなと思いましたし、今話題になっております食に関する課題を解決するためには、さらにそのことが強く求められているんだなと感じました。子どもが小さければ小さいほど、その子を支える家庭の状況とか文化レベルとか経済レベルとかが食を通して分かってしまう立場にいるので、指導する立場として十分配慮していかなければいけないのかなと思いつながりながら聞かせていただいていたいました。

【遠藤委員】

大きくは3つ、感じたことを言わせていただきます。まず一つ目は、今、朝ごはんの大切さについてよく言われていますが、小学校においても朝ごはんをしっかりと摂るように、子どもたち又は保護者に向けても一生懸命アピールをしています。アンケートを見せていただきましたところ、朝ごはんを食べていない子はゼロということで、全員が朝ごはんをちゃんと食べているということは、今までの啓発や働きかけの努力の成果かなと思います。しかし、やはり朝ごはんについては、先ほども出ていましたけれども、食事の内容も大事な部分であるということを本校でもつい最近校医さんからお話を伺いまして、保護者に向けて朝ごはんを摂ることはもちろん、その内容についても子どもたちの脳へのエネルギーであるとか、そう

いった大切なことをお伝えしていきたいなと思っています。園の方でも大変努力していただいているそのことについて、例えば家族との連携の中でどれにあたるのかなと見せていただいていたんですけども、基本的な生活習慣や生活リズムを整えるという部分に含まれてくるのかなと思っています。ですので、カリキュラムにということではないのですが、先ほど園長先生からもお話がありましたが、アンケートの間5で、15番の園からの便りを見てというところがゼロということに関しましては、学校現場にいる私としましても大変さみしいなあと、小学校もその現状にあるのかなと思いつつも、やはり根気よくこういうことを続けて伝えていくということは大切ですので是非努力をさせていただきたいと思っています。就学前にいろいろなことに段階的に取り組んでいただいてあって、敬意を表するとともに、これを受けて小学校でも引き続き段階を追ってということをお願いしたいと思います。

2つ目ですが、食物アレルギーのことにつきまして、たくさんのご意見を出されておりましたが、段階を追ってその子自身がとか、周りの子どもたちがという部分が大事な部分だと思います。園で育てていただきましたその意識を、周りの子どもへの理解を広めるという意味でも、小学校でも引き続きその努力をしていきたいと思っています。そのカリキュラムのことに関しましては、3・4・5歳児それぞれ4、5月のところにアレルギーに関することが書いていただいているのですが、3・4歳のところは同じ表現で、5歳児は少し表現が変わっています。大きな意図があれば教えていただきたいのですが、私の個人的な意見といたしましては、小学校でもそうなんですが、職員間で統一理解を図る、全職員がそのことを知りその子に対し対応できるということはすごく大切だと思いますので、3・4・5歳児共に、例えば食物アレルギーのある子の状況とその対応をしっかり把握し職員間で共通理解をしておくという、これほどの年齢に関しても保育する側に関しては変わらずでよいのではと思いました。

3つ目になりますが、先ほど箸の持ち方について意見が出ました。何歳からおはしに関して持ち方をというあたりにつきましては、園のほうでしっかりと考えていただいていると思います。鉛筆の持ち方とたいへん関係がございますので、はしが正しく使える、はしが正しく持てるということは文化とともに大切な部分だと思いますのでこれからも是非よろしくをお願いします。

【副委員長】

いろいろな意見をだしていただいてありがとうございました。

私の園でもアンケートをとりますと、保育園の子は6時半、7時半とかに朝ご飯を食べていて、幼稚園の子は8時から9時ぐらいで食べ始めるという回答なんですね。ですから、保育園の子は昼食の時にすごく食欲旺盛です。幼稚園の子は結構食に関して弱いなと感じたりします。保育園の場合は朝が忙しいので急いで食べている、食べさせられているといった感じで、食べてはいるんですが中身はだいぶ違ってくるということを感じています。しかし、一方では、今の30代の保護者の方は私たちの時代より子ども中心にいろいろなことを考えてみえるので、連携をどうとっていくかということに非常に神経を使われてみえると思うんですね。友達と先生の力を保護者はどう借りるか園では仕掛けをしていて、食べられないものが食べられるようになったり、食べるのが少し早くなったり、いろいろなことができます。園からどう親に仕掛けていくかは大事な時代で、いわゆる主婦だからという考え方でなく、ここの原則はお願いしますね、こちらでこういうことやっていますよという、お箸の持ち方が出ましたけど、遠藤委員が言われましたように鉛筆の持ち方はお箸の持ち方ですし、スプーンの持ち方なんですね。握り箸よりもちゃんとした持ち方の方が鉛筆で早く書けますので、持ち方が大事になってくるというのはこちら側から仕掛けていくということで、非常に大事になってくると思います。例えばテレビですけれども、食事時のテレビは見ないようにという取組を、小学校もそうですが保育園も幼稚園も起こしていかないと、益々テレビに向いてしまいます。私学では鉛筆や箸の持ち方を2歳から5歳児の中でどう仕掛けていくのかというのをずっとテーマにしています。それから、座った姿勢と決まった時間は動かないこと、この3つだけはしっかりさせていこうという形で、私どもの幼稚園、保育園も大事にして、そして小学校へ送り込もうと。いろいろ抜けていることもあるかもしれませんが、出来る限りそこへいこうという考え方を持っております。幼稚園、保育園でこういうことしとるよ、親御さんもお願いしますねということは、どんどんやってもいいと思うので、その辺の保育園や幼稚園の取組は小学校の保護者からあまり見えないわけですね。しかし、一番基本が教えられるのはここだと思います。私は保護者に発表会などで言うんですが、子どもになるのはいわゆる3つ子やと言われとるんですが、生まれて天の氣を得て、2歳で大地の氣を得て3歳になって人の氣を得て人になっていく、その土台を大事にして欲しい。それをもとに我々は3歳から5歳児を預からせてもらう。そこを次のお子さんも大事にしてくださいよとこっ

ちから仕掛けていく姿勢が大事です。小学校、中学校へ向けての土台を作るのは幼稚園、保育園の時期やと思います。そこでしっかりと座ることができたら、小学校へ行って立ち歩きはしませんから、そののところが大事にテレビを見せない運動とか、我々が取り組んでいくことと思っています。

【委員長】 遠藤委員からカリキュラムの5歳児のアレルギーの表記が3歳、4歳と違うというのは特に何かあるのでしょうか。

【事務局】 そのことも含め、家庭との連携の中に食に関することについて取組が少ないんじゃないかというのも含めて、今日出た意見を事務局を通じて幼保共通カリキュラム検討部会の方にお示しをさせていただきます。

【委員長】 みなさんからいただいたたくさんのご意見は、策定委員会へお示しさせていただきますので、事務局にて集約して私の方で確認をし、幼保共通カリキュラム検討部会への提出をします。そして、最終意見書に付して教育委員会へ提出したいと思います。最終意見書は、この2年間の学校給食検討委員会の資料や協議内容、意見書などを盛り込んで一冊にしたいと考えております。それにつきましては、委員長に一任いただきたいのですが、よろしいでしょうか。

それでは、最終意見書の方も私の方で教育委員会へ提出いたします。本日の議事は全て終了いたしました。これをもちまして、昨年度より設置しました学校給食検討委員会の協議を終了いたします。

2年前にこの給食検討委員会の委員長をとお話をいただいた時に、私は食の専門家と違うんですとお話したんですが、食の専門家でなくて構いませんのでということで委員長の方をお受けさせていただきました。実際どんな委員会になるのかなと心配はしておりましたがけれども、他の委員会と比べてもこんなに活発に意見が出る委員会は他にありませんというような意見も頂いたくらい、みなさん活発にご自分のご意見を伝えていただいて、全く意見が出ないという心配したことがないというような、恵まれた会議にさせていただくことができました。これもひとえに委員の皆さんのおかげだと思っております。第二次意見書の方は責任を持って提出をさせていただきますので、みなさん本当にありがとうございました。

【副委員長】 私は教育委員会の仕事はずっと断ってきて、20年ぶりに引き受

けました。それまでは、農林部と保健部の関係は引き受けるといったところがありました。だけど参加させていただいて、先生方、保護者の方々のいろんなご意見があるというのが分かりまして、これからの参考にしていきたいと思っております。本当にありがとうございました。

【委員長】 それでは、最後に事務局、お願いします。

【教育次長】 昨年度より委員の皆様には、お忙しい中会議に足を運んでいただきまして、ありがとうございました。また、素晴らしい方々で活発なご意見をいただいたことに感謝申し上げます。特に、委員長、副委員長にはこのような難しい問題をうまくとりまとめていただきましてありがとうございました。会議としては、本日で最後であります。本日の議事録の確認などご意見をいただく場合もありますので、最後までよろしく願いいたします。

 それでは、今後とも教育行政にご理解、ご協力をお願いして事務局の挨拶とします。ありがとうございました。お気をつけてお帰りください。

- 了 -